

天国へ行った親友君

ラジオネーム：いけだ とみお

君が亡くなって、53年。その間に君のお父さん、お母さんも亡くなり、大変悲しい思いをしました。僕は、そして生きていければ君も今年で73才。月日が流れるのは早いものだね。

思えば君とは小学1年生の時からのお友達でしたね。夏には立待岬で海水浴、冬には護国神社前の坂でソリすべりと楽しかった思い出ばかりが浮かんでいきます。

君とは床屋さんに行くのも、銭湯に行くのも一緒。言い合いの喧嘩もよくしたけど、不思議とすべて仲直りして、またすべて遊びに出かけたっけ。

そんな様子を見て、僕の姉さんからは「仲のよい兄弟みたいだね」と言われたものです。

自転車屋だった親父さんの血をひいたのか、君は手先が器用で、壊れたラジオなんかも直してくれたね。将来はエンジニアにでもなるんだろっかなと頼もしく思っていました。

でも君は二十歳になってまもなく病気になる、その年の1月1日、天国に旅立ってしまった。あっけなさをきるよ。

君と一緒に行くはずだった成人式。君をいない悲しい気持ちを抱えたまま、僕は参加した。背広の内ポケットには君の写真。そう、君といっしょに参加したんだ。ずっと一緒に年を重ねていくと思っていたから。

あれから53年。元気でいれば君もお嫁さんがいて、子どもがいて、そして孫がいて、幸福な人生をおくれたと思う。今だったら、君とどんな話をしただろう。孫の話か、いや、持病の話かな……そんなことを思いながら手紙を書いていたら、涙が出てきた。この辺りで筆を置くよ。

そちらではお兄さん、お父さん、お母さんと会えたか？

僕はこれから元気で暮らしていくから、もう少し待ってほしい。いつかまた会おう。じゃあね、親友君。

### リクエスト曲

（ 竹トシボ / 堀内孝雄 ）